

2025年3月16日 第二礼拝

説教題「人は皆、火で塩味を付けられる」マルコによる福音書9章42～50節

主任牧師 加藤 誠

「人は皆、火で塩味を付けられる」(マルコ9:49)

ある方がこう言われていました。「幼稚園の頃に聞いた聖書のお話のイエスさまは、優しくて強くて何でもできるヒーローだったけれど、福音書のイエスさまはけっこうズタボロに言われてたりしてそのギャップに戸惑う。弟子に向かって『サタンよ!』と言うイエスさまには正直『えっ、こんなこと言うの?』とショックだった」と。

その意味では、今朝のマルコ九章の「地獄の火」と呼ばれている段落は、主イエスの言葉としては受け入れがたいショッキングな言葉ではないでしょうか。「大きな石臼を首に懸けられて海に投げ込まれよ!」とか「あなたをつまづかせる手は切り落とせ!」とか、誇張して語られているのだらうと思いつつも、その激しく過激な言葉にたじろがざるをえません。

主イエスは片方の手や足を「切り捨ててしまえ」とか、片方の目を「えぐりだしてしまえ」と言われますが、わたしの場合「罪を犯すのは片方の手や足、片方の目だけではない。そもそも手や足が罪を犯すというよりも自分の邪悪な心が身体に罪を犯させていることを考えるなら『お前のその罪深く傲慢な心をえぐりだして捨ててしまえ』とされているようで、「そのような自分がどうやって救われるのだらう」と絶望的な思いにさせられます。いったい主イエスはこれらの大変厳しい言葉を通して、何を語ろうとされているのでしょうか。

何度も読み返す中でまず示されたのは、主イエスがここで言わんとされたのは「自分の罪に敏感であれ」ということではないか。42節「わたしを信じるこれらの小さな者をつまづかせる者は…」の「つまづかせる」の原意は「道に邪魔物を置く」であり、「人が神の愛に向かって歩もうとするのを邪魔する」という意味になるようです。「あなたの言葉や行動が、主イエスが愛してやまない一人の人が神さまの愛につながるのを邪魔していないか。胸に手を当てて考えてみなさい。自分の罪に敏感でありなさい」ということを示すための、厳しい言葉なのではないか…ということです。

そして「両手がそろったまま地獄の火の中に落ちるよりも、片手になっても命に入った方がいい」という言葉は、主イエスが私たちをなんとか「命に入らせ、神の国に入らせる」ために語られている言葉ではないか。つまり重点は「地獄に落ちてしまえ」にあるのではなく、どこまでも「命に入り、救いにあずかれ」にあるということです。

また主イエスは、私たちが片手や片足などの状態で神の国に迎え入れられることを語っておられるますが、実はこの言葉は旧約聖書の律法を重んじる人たちには驚きの

言葉だったはずですが。旧約聖書の律法では「身体的に不十分である人たちは、神の祝福から外れている」と教えら、その身体のままでは、神の国に入り永遠の命にあずかることはできない。普通の人以上に善い行い、功德を積まないダメだと考えられていた。それに対して主イエスは、身体的な状態は神の救いにまったく関係ない。たとえば病気や身体的不自由な者も、みんなそのまま迎え入れられるのが神の国である！と語られたのでした。ここに主イエスの神の国の福音が示されています。

その中で 49 節「人は皆、火で塩味を付けられる」の言葉に目が留まりました。「火で塩味」とはどういう意味でしょうか。この言葉の背景には旧約聖書レビ記があります。律法では神へのささげものに必ず塩をかけて火で焼いてささげました（レビ記 2・13）。ささげものは、塩と火によって「清められ」神に受け入れられる。とするなら、この言葉は「人は皆、火と塩で清められる」と理解できそうです。

では「人を清める火と塩」とは何でしょうか。ある人は「聖霊」のことではないかと解釈します。バプテスマのヨハネは主イエスのことをこう語りました。「わたしは水でバプテスマを授けたが、その方は聖霊でバプテスマをお授けになる」（マルコ 1：8）と。バプテスマという言葉は「全身を水に沈める」という意味ですから、「聖霊のバプテスマ」は「聖霊の中にすっぽり沈められる」ことです。主イエスは、聖霊は「人の子らが犯すどんな罪や冒瀆の言葉もすべて赦す」（マルコ 3・28）ことを教えてくださいました。つまり「火と塩である聖霊の働きにすっぽりと包まれることによって、罪深い私たちが神の前に清いもの／ふさわしいものとされて神の国に受け入れられる」。その聖霊は十字架のキリストを通して私たちに注がれる。ここに、体も心もすべてが罪にまみれて「地獄の火」に投げ込まれるほかない私たちに対する、十字架の主の福音が示されているのです。

そして最後の 50 節はこう締めくくられます。「自分自身のうちに塩を持ちなさい。そして、互いに平和に過ごしなさい」。自分自身のうちに持つべき「塩」。それは「聖霊による赦し」ではないでしょうか。「主イエスが愛してやまない一人の人に対する、あなた自身のあり方、向かい合い方。あなた自身の中にある罪に敏感になりなさい。それは主が深く深く悲しまれているものだ。そのような罪人の頭であるあなたを神の国の命に迎え入れるために、十字架に向かわれた方のことを思いなさい。そして、十字架によってあなたに注がれている聖霊の赦しを、しっかり心の真ん中に持って、互いに平和に過ごしなさい」と。そのように主イエスはここで私たちに語りかけておられるのではないのでしょうか。

「人は皆、火で塩味を付けられる」「自分自身のうちに塩を持ちなさい」。主イエスの十字架の道は、私たちに平和に導く道行きです。十字架の主が教えてくださいださる「神さまとの平和、隣り人との平和」の歩みにあずかっていきましょう。

